

人に、自然に、やさしい地域づくりを目指して

# 和と風と

社会福祉法人 潤沢会  
ワークステーション湯田・沢内

〒029-5612  
岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-28-4  
TEL0197-85-2019 FAX0197-81-2015

編集人／高橋 和也  
発行人／坂 巻 熙  
印刷／鶴田印刷株式会社

No.65

## 改正出入国管理・難民認定法

### 過疎の町から考える

改正出入国管理・難民認定法（以下、改正入管法）が12月8日（土）の参院本会議で賛成多数により可決、成立しました。特に人材不足に悩む過疎地域を救う改正となるのでしょうか。

事業で、スリランカから2名の女子青年を受け入れ。ホームヘルパーの同行訪問、入浴サービスの補助、福祉共同作業所で障がい者支援活動をしたそうです。今で言う技能実習制度の先取りです。

2年間という長丁場を活動できた背景には、スタッフの一員としての位置付けだけではなく、「育てる」という視点があったからだ。と当時の事務局長は話します。

#### 町内福祉事業所の人材不足

当法人は事業所1箇所、利用者35人、職員11人でスタート。しかし、平成30年12月現在は、事業所5箇所、利用者56人（平均年齢59・8歳）、職員47人（平均年齢58・8歳）となっています。利用者より職員の増加率が高いので、余裕があるのでは？と思われがちですが、これはグループホーム（泊まりの事業所）ができたためです。これでも法律上の職員配置ギリギリであり、場合によっては職員の兼務が必要な状態です。また、町内の福祉・介護等サービス事業所も、人材不足に悩んでいます。この課題を解決する手立ての一つとし

て、外国人の登用は当然考えられます。

#### 外国人特有の課題

しかし、3年程度の実習では、読み書きが難しい、利用者や職員とのコミュニケーションが十分に取れないなど、外国人特有の課題があるとも言われています。中山間地域では仕事に加え、暮らし等も含めたサポート体制が必要です。また、西和賀町内にある小さな法人では、事業所毎での体制作りは難しい状況。数箇所の法人が連携することも考える必要があります。

#### 誰もが働ける社会に

町内にも外国人労働者が各分野で活躍しています。過疎・高齢化の町では、今後も広い視点での人材確保は必要不可欠です。しかし、改正入管法による労働力を期待することも一つですが、女性の雇用体制（子育て世代の母親）や障がい者雇用の体制にも課題は山積しています。働きたい国民が働けていない現実があることも忘れてはいけません。むしろ、こういったことに対応できない社会ならば、外国人の労働環境、条件も決して良いものにはならないはず。

外国人労働者数や保育所の数、障がい者の雇用率など、数字の問題ではなく、誰もが持っている力を出し、働ける社会であることが、重要なことです。

高橋 和也



理事会でも課題にとりあげられる人材確保

今回の改正は農業や介護の人手不足対策も目的の一つ。介護に関しては、例えば、特定技能1号で受け入れ。1号要件は技能実習3年修了相当と言われ、一定程度の知識や技能、日本語能力のある人ということになっています。

#### 育てる視点が重要

旧沢内村社会福祉協議会では、平成2年から3年の2年間、日本青年奉仕協会の「1年間ボランティア」

# ホームページが新しくなりました。

**juntakukai.com** で検索！



社会福祉法人潤沢会のホームページが新しくなりました。アドレスは「<http://juntakukai.com/>」です。新しいホームページはワークステーション湯田・沢内のさまざまなシーンを写真で紹介しています。ホームページは大きく「法人概要」「事業内容」「元気一番館」「ギャラリー」「ふるさと宅急便+花宅急便」の五つに分かれています。

「法人概要」では理事長挨拶、施設概要、広報紙、情報公開、アクセス、寄付について見ることが出来ます。理事長挨拶のページには理事長夫妻の写真付き、広報紙は「和と風と」の最新号を読むことが出来ます。時代の要請で「情報公開」のページではさまざまな法人の関係書類を読むことが出来ます。

「事業内容」は自立訓練（生活訓練）事業、就労継続支援（B型）事業、生活介護事業、特定・障害児相談支援事業、共同生活介護事業、短期入所事業所、地域活動支援事業をそれぞれ写真付きで紹介しています。

「元気一番館」のページでは元気一番館の開設の意義、平面図、アクセスを紹介しています。元気一番館の事業内容については「法人概要」→「施設概要」と見ていただければ詳しく説明いたしております。

「ギャラリー」のページではさまざまな行事や業務内容、利用者の素顔をご覧なれます。

「ふるさと宅急便+花宅急便」のページは首都圏を中心にご利用いただいている「ふるさと宅急便」と「花宅急便」の内容や発送例、お申し込み方法等を紹介しています。このページには振込先、お問い合わせやお申し込みの際の電話とFAXの番号、ご注文メールアドレスも記されています。

なお、この新しいホームページに合わせて、新しいメールアドレスも開設しました。

《お問い合わせなどは [info@juntakukai.com](mailto:info@juntakukai.com)》

《ふるさと宅急便や花宅急便については [furusato@juntakukai.com](mailto:furusato@juntakukai.com)》をご利用いただけます。

トップページにはその時その時のニュースをお伝えする写真付きお知らせのコーナーもありますので、時々ご覧になってください。

# 今年は和太鼓で交流



西和賀町の補助金事業である「障がい者施設交流事業」。一昨年は「降る滝ハイキング」、昨年は「ふれあいミニ移動動物園」と、毎年形を変えながら北上市内施設との交流に取り組んできました。

今年は更に広域的な連携を深めるべく、11月15日に奥州市「ワークセンターわかくさ様」、奥州市「川西天馬太鼓様」、「さわうち太鼓百年座様」の協力を得、「和太鼓交流会」を実施しました。古くから和太鼓に取り組まれている「わかくさ太鼓」。6年目のワーク太鼓チームにとっては大先輩になります。冬場の練習に始まり、特養でのお祭り、百年座30周年公演、福祉まつりなど、和太鼓に力を入れてきた今年、集大成が今回の交流会です。

昨今、農業と福祉の連携、いわゆる「農福連携」と呼ばれるものがクローズアップされてきています。折しも、わかくさ様では地元「菅野農園様」と協力し、リンゴの収穫や選別作業などその分野にも力を入れておりました。西和賀と同じ中山間地域ということ働き手が不足、その部分をわかくさ利用者が担っており、今では欠

かすことの出来ない人材とのこと。農福連携の最たる事例を目の当たりにし、利用者・職員とも関心しきり。西和賀でも実践の可能性を探っていかねければと、気持ちを新たにしたいところです。

午後からは、わかくさ施設内での和太鼓交流会。場数は踏んできたといっても、いつもと違う雰囲気を利用者は緊張気味。それぞれの持ち曲披露では、お互いどのような太鼓を叩くのか、みんな興味深々。熱心に聴き聞いていました。

その後は、初めて太鼓に触れる利用者も含めての基礎練習に時間を割り、和太鼓の楽しさや迫力、挑戦していくことの大切さをみんなに感じてもらえたと思います。非常に有意義だった今回、来年度以降更に広域に呼び掛け参加施設を増やすことで、広域連携の充実、利用者の社会参加の場の提供を図ることができればと考えています。

事務長 高橋 健一



太鼓を通して交流を深めました。

## 「風声」



長 教授 職 員  
大 学 名 譽 職 員  
日 新 聞 名 譽 職 員  
毎 日 坂 卷 熙

### 黄金虫は金持ちだ (童謡) ゴーンさんは金持ちだ 金蔵建てた ウソついた

あまりにも金額が大き過ぎ、ピンとこない話。ご存知、日産自動車の前会長、カルロスのゴーンさんのことだ。役員報酬が11年3月期〜15年3月期の98億円余り。それを約50億円と有価証券報告書にウソの記載をしたことで

罪に問われた。

さらに16年3月期〜18年3月期の三年間は、72億円の役員報酬を、29億円と、少なく申告していたという。人間の価値は収入で決まるのか(それも一つの目安になるが)。私たちの日常の生活。急病になれば救急車が。ゴミの収集車もキッチンと来る。

郵便は必ず届く。電車やバスも時刻通りに。大きな災害に便乗した略奪や暴行もない。

お巡りさんも、例外はあるにしても、正義の味方で、わが国の治安の良さは世界に誇ってもいい。

悪いことをする奴もいるけれど、日本社会の健全性は、ゴーンさんには、はるかに及ばない収入で、名も無く貧しく美しく、生きていく沢山の人も、職業モラルと真面目な仕

事ぶりに支えられているのだ。

ゴーンさんは世界に誇る経営者だという。だが、コストカッターと言われ、合理化の名目で従業員のクビを切った人でもある。

仕事を奪われた人、その家族の心情はいかばかりか。また、それを許してきた日産の経営者や株主、従業員は、どう思うのか。

フランスの経済学者、トマ・ピケティは著書「21世紀の資本」で、経済の低成長と人口減少で、格差社会はますます拡大すると言っている。日本はその先頭を走っている？

他人の収入をとやかく言いたくはない。けれどゴーンさんの三年間に収入が、真面目に生きてきた年金暮らしの僕の九百倍以上もあると知ると、ちとくやしい。

# 食べて・歌ったクリスマス忘年会



佐藤教育長(右)と利用者の歌声に盛り上がる会場

去る12月21日(金)、恒例のワークショップ「シヨン湯田・沢内クリスマス忘年会」を開催しました。利用者、保護者、関係者、職員総勢90名の大パーティ。ランチメニューはピラフ、から揚げ、グラタン、パスタ、フライドポテト、エビとサーモンのマリネ、漬物、コンソメスープ、ミニケーキ4種とボリウム満点!!もちろん今年も午前中から保護者の方々にもお手伝いをいただきました。おいしい料理に皆満足、保護者と利用者の会話も弾みました。

第二部は西和賀町教育長 佐藤敦士氏による「みんなで歌おう!歌声喫茶」でスタート。「あの素晴らしい愛をもう一度」や「北国の春」など全4曲を皆で歌いました。カラオケとは異

なるギターの生演奏に、いつもよりこぶしのまわりが調子良かったTさん。メインボーカルに抜てきされ歌う場面もありました。その後はバルーンアートに皆で挑戦。「割れるのが怖い」と逃げ腰で挑戦しながらも、犬などの形ができたときには大喜び。

各事業所の歌や踊り、劇が飛び出した後は、サンタの登場!!真っ白い冬の景色に良く似合うシクラメンやポインセチアのプレゼントで幕となりました。

北島 淑子



趣向を凝らした各事業所の出し物

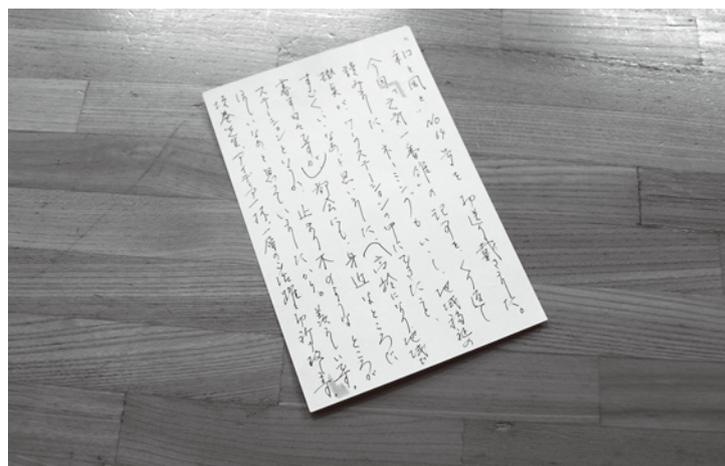
## ありがとうサポーターさん

元東京都副都知事、金平輝子様より激励のお手紙を頂戴しました。その一部をご紹介します。いただきます。

広報紙「和と風と」にて、「元気一番館」の記事をくり返し読みました。ネーミングもいいし、地域福祉の拠点が、ワークステーションの中にできたこと、すごくいいなあと思いました。(高齢になり地域で暮らす日々ですが)都会にも、身近なところにステーションというか、止まり木のようなところがほしいなあ、と思っていましたから、羨ましいです。

一層のご活躍をお祈り致します。

金平 輝子



金平輝子様から頂戴したお葉書

## クリスマス会に嬉しいご寄付

北上市の東北労働金庫様よりご寄付をいただきました。12月21日(金)には、峰正樹推進委員長と伊藤支店長が当施設のクリスマス会に駆けつけてくださり、贈呈式を行いました。

このご寄付は、同金庫の社会貢献目的定期預金から贈られたものです。利用者代表し、高橋学さん、三浦佳奈さんがお礼の言葉と手作りジャムを贈りました。

大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。

高橋 和也



利用者から御礼の言葉とジャムを贈りました

# 今年の農作業も無事終了



秋の風物詩、はせがけの様子

農作業も終盤となった11月14日(水)、ワークステーション湯田・沢内の収穫を祝う昼食会を開催しました。メニューはおでん・豚汁・ポテトサラダ・漬物炊き込みご飯、午後には大餅つき大会も開催し、小豆やきな粉で味付けしたお餅で3時のティータイムとなりました。

今年の主な収穫物はブルーベリー(約132kg)、桑の葉(約60kg)、うるち米(約960kg)、もち米(約200kg)、ジャガイモ(約1500kg)、大根(約3600本)。その他、ネギ、大豆、えごま、そば、きゅうり、なす、ピーマン、ニンジン、パプリカ、南蛮、白菜、キャベツなどを収穫しました。

今年の夏は暑さとの戦い。利用者、職員は絞れるほどの汗を流し農作業に取り組みました。また、高温で生育状況にも不安はありましたが、平年並みの収穫となりました。熱中症等、体調を崩す人も無く冬を迎えました。今度は寒さとの戦いが始まる。さあ、除雪始めるかあ!

山本 優太



恒例の餅付きも盛り上がりました

N君の訃報が届いた。あーあ熊さんが逝ってしまったのです。小学校4年の学芸会(今は学習発表会と言ったところですが)「4匹のくま」のお父さん役を務め、私が少女役でした。でっぴりずんぐりの彼ははまり役でした。男女別学の高校を除いて、小、中学校は不思議と同じクラスで過ごしました。70年も昔の話です。

毎年の同級会では、女性の輪の中で、横浜在住のN君は「ハマにおいでよ、中華街でふかひれご馳走するよ」と、小気味よく飲み、快活に話し、男性版のマドンナでした。

最後に同級会で会ったのは、10年も前のこと、「肝臓ヤラレタよ」とげっそり痩せていたのです。間もなく傘寿の小中高校と同じ

喜寿の

## ハッピートーク

No.33

学校卒の仲良し4人組の私たち。カラオケボックスに陣取って、(オールド)女子会。「N君逝った。S君ボケた。A君入院、F君施設のデイサービス。どの男子も可愛かった!!」としばし情報交換。後は飲んで、歌って、踊って、(オールド)ガールストーク楽しんでいきます。

「仕方がない、人は早かれ遅かれ一度は死ぬ身。生ある今を充実して悔いなく生きなくちゃ。」ふかひれ驕ってもちう前に、逝ってしまったN君に献杯。いつの時代でも、世の常で、ラディカルでエゴイスチックな女子は丈夫で、元気で、長持ちします。

次々と黒枠のがきが舞い込む寂しく辛い年の暮れです。

相談役 坂巻 潤子

## 東京から新しい受託作業

東京に本社を置く株式会社Sunshine (サンシャイン ジュース)様からの新しい受託作業に取り組んでいます。この会社は、日本各地の生産者から直接取り寄せる無農薬・減農薬の野菜や果物を、お店で搾ってジュースにする日本初のコールドプレスジュース専門店として2014年1月にスタート。健康志向の食品にも着目し製造販売をしています。その製品の内、3種を当事業所で製造させていただけることとなりました。

もちろん、首都圏で製造すれば、経費も抑えられるわけですが、中山間地域の小さな事業所をなんとか応援したいことから、実現したものです。利用者の工賃アップ、西和賀町から全国へつながる機会となっております。本当にありがとうございます。

高橋 和也



製造を開始したバーとナッツ

## 今ある地域の力を

西和賀町は岩手県内でも有数の豪雪地帯です。高齢化に伴い、除雪が難しい世帯が増えており、冬期間の大きな課題にもなっています。

除雪が困難な高齢者世帯を対象に活動しているスノーバスターズは、こういった課題を少しでも解決すべく、全町あげてのボランティア組織となっています。地区ごとに編制されており、毎月第2日曜日を統一活動日として実施されています。

しかし、人手不足により活動の難しい地域も増えていきます。これまで積極的に活動してきた人たちの高齢化や、若い人が町外へ移住するなど主な理由です。また、地域によっては、活動したい高校生までの子供たちがいるのにも関わらず、移動手段がないために、遠い世帯での活動ができないケースもあるようです。

ボランティア活動だけでは限界がありますが、人口減、高齢化の進む地域では、今ある地域力を残す仕組みづくりは必要不可欠です。ワークステーション湯田・沢内もその一助になればと思います。

高橋 和也

## グループホーム便り



### 時間をかけて真の言葉に

西和賀は今日も雪。閉塞感が募ります。予定の変更がきわめて苦手な人にとって、雪空は大きな悩みの種。「ワークも休んで出て行ったらどうなるかな?」「お母さんが悲しみます。」自問自答のTさん。お母さんを悲しませたくないから思いとどまるのです。

グループホームの役割分担、自

ら雪払いを申し出たのもTさんでした。ただでさえ起きるのが億劫な冬の朝。自分で決めたことはルーティーンとなつてぶれることのないのが彼の強み。通所の日も休日の朝も、当たり前的事として黙々と雪を払います。「やってやってる」感もなく、感謝されることを期待するでもなく。

春に話をした時、「役に立つ人になりたい。」ときっぱりと言った彼。自らの言葉に嘘も無く、気負いもない、ちよつと男らしさを感じてしまふ。察するに、日頃から親御さんの願いが伝え続けられているのでしよう。

楽しいことも悲しいことも皆で分かち合う



「もうしません。」「今度から〇〇します。」「の言葉を取るには難しくはないが、愛おしみ案ずる人の願いと、願われる側の「あの人を悲しませないために、あの人を喜ばせるために」の思いが、時間をかけて緩(ゆる)やかに重なり合つていくとき、真(まこと)の言葉になっていく。さて、私は誰かにとつての「あの人」になれるだろうか。

高橋 順子

## 施設長敬白

今年の漢字は「災」と発表されました。政界ではデータの改ざん、続く不祥事、そして障がい者雇用率の長年行われた不正。このようなことは国民にとって「災い」と言えるでしょう。「亡くなった人もカウント」。メガネを使用しているだけでカウント」、企業で長く障がい者に関わってきた者として怒り沸騰でした。

企業が法定率を守るために、さまざまに取り組みをしていることを目の前で見てきました。民間には罰則まで用意し、「国や県は守ることが当たり前なので罰則はなし」と言ってきたその行政が法定雇用率制定当時から不正をしていたと聞き、この国は「不正をしても、データをごまかしても誰も責任を取らない」という国に落ちぶれたと思つた次第です。近年日本をほめたたえる、自画自賛するTV番組が増えましたが、それだけ日本人は自信を失いかけておると思っています。新しい年は自然を含め「災」のない年になるよう願っております。政界も自然界も「これでもか、これでもか」と起きるのは共通しているようです。

施設長 石川 紀文

## 編集後記

暖冬とは言え西和賀は雪景色。雪の下で野菜がうま味を増すように、一つ成長できる冬にしたいものだ。

高橋 和也